



えぞふくろう

株式会社 残間金属工業 ニュースレター 第5号 平成26年12月22日発行



弊社社外報『えぞふくろう』ですが、1年近く放置し未発行のままでありました。
本当にお恥ずかしい限りですが、改めて皆さんに弊社の様子をお伝えできればと思っております。
さて、弊社は一昨年より新規採用を積極的に行っております。やはり後続く人材を育てなければいけない
という事で、新卒者中途者問わずに進めているところです。その中で実感したのは
『ウチのことなんて誰も知らない』ってこと。
先日は中小企業家同友会の企画で釧路市内の高校の採用担当の先生方に弊社を見ていただく機会に
恵まれました。当然ながら、まず会社自体を知らない、そして業界のことも知らない。
当たり前ですよ、こちらが積極的に情報を発信していないのだから。
昔であれば、良いものを造り、良い仕事をしていれば、お客様は勝手についてくるといったような考え方が
我々ものづくり業界の中にはあったと思います。
しかし、今は自らが自らの情報を発信していかなければならない。そうしないと、お客様や新しい人材が



ウチを選んでくれないのです。
作り手の顔を見せることだったり、自分達の価値を広く知っていただくことだったり。
それらを発信して『こんなヤツらが、こんなモノ作っているんだ。』
『なんだかワケ分かんない、でかい工場の中はこんなモノ作ってたんだ。』
という事をもっと知っていただきたいです。来年に向けても定期的に皆様に
『えぞふくろう』をお届けできるよう頑張りますので
どうぞよろしくお願い致します！

(取締役営業部長 残間巖)

welcome

11月21日(金)に北海道中小企業家同友会様の主催で、管内の公立高校進路指導の先生方が我が社へ
企業訪問にいらっしゃいました。

“ものづくり”の現場を初めてご賢になる方が多く、作業の様子に驚かれる方も見受けられました。

我が社としても、インターシップや小学校児童の工場見学は何度かあっても、先生方に社内を案内する
というのは初めてでしたので、準備が至らないところも多くあったと思います。

私個人としては、ニュースでよく耳にする3Kという職場に、生徒の進路指導をする立場の先生方はどんな
印象をもっているのかがとても気になっていました。やはり、生徒に薦めにくい職種なんだろうか。できれば
もっと華やかで活躍が目に見えてわかる職場に就職してほしいのだろうか。と思っていました。

工場見学後に感想を聞いてみたのですが、多くの先生が“悪いイメージはもっていない”とのこと!!

驚きでした。やはりはじめは“暗いイメージがある。給料が安く、長時間労働。”というイメージをお持ちでも
ありましたが、工場見学を終えてみるとイメージが変わったと皆さんおっしゃってください、半数以上の先生から
“生徒に生の現場を見せてあげたい”との声!!これは社内でも励みになるのでは。と感じました。
やはり聞いているのと実際見てみるのでは大きな違いがあるようです。

こんな機会が増えてもっと若い世代にも興味をもってもらえたらいいなと思いました。(総務部 小林育美)



ストーブの思い出

当社の前身、残間板金工業所の頃、薪ストーブ・ルンペンストーブを大量に生産出荷していた時期がありました。

その頃は道東の金物屋さん、又各学校はルンペンストーブを使用していましたので、8月頃から製造をスタートさせ10月中頃からの出荷が始まるまで、自宅の部屋（寝室等）を倉庫代わりにしていたので、ルンペンストーブとの隙間に布団を敷いて寝ていたり、子どもの頃には、近くの金物屋さん、リヤカーにストーブを積んで兄（現社長）と2人で配達に行きました。

時々金物屋さんのおじいさんが小遣いをくれたので、それを楽しみに手伝いをしたのもいい思い出です。

近年、住宅が立派になり、石炭から石油へのエネルギー転換によって炭礦が開山され、石炭ストーブが使用されている機会を目にする事も少なくなりましたが、先日わざわざ見本を持って当社に“ルンペンを製作してほしい”と来社された方がいて、まだルンペンストーブが使用されてる事に大変嬉しく思いました。



（常務取締役 残間和義）

WORKER

どんな仕事をしていても、花形な部署というのはあるものです。

3Kといわれるこのものづくり業界にも、もちろんその部署があります。

それが“溶接屋さん”のいわゆる、溶接をする人たちです。溶接の出来で製品の良し悪しが決まってしまうので、関心の高い部署でもあります。皆さんご存じの“東京スカイツリー”のあの柱の継ぎ足しは、現場で溶接されて出来上がっているのです。そこで、今回は我が社の溶接担当の5人に少しインタビュー。

Q.初めて溶接しているところを見た印象は？

（入社当時や学生時の授業等）

- ・楽しそう??
- ・（光が）眩しい
- ・鉄がくっついた
- ・熱そう、危険な作業だと思った
- ・（当時は）無関心



Q.溶接の仕事をしていてやりがいを感じたりおもしろさを感じる場所は？

- ・自分で納得のいく溶接が出来たとき!!
- ・自分の溶接した建物を完成してから見たとき!!
- ・時間のかかる作業を終えた時の達成感と上達したことの実感!!



☆技術職ならではの達成感や満足感を得られるところが良さですね！ただ、仕事だから…という回答も(笑)

Q.逆に大変だなあ、辛いと思う時は？

- ・（同じ溶接姿勢でいたとき）体・腰が痛い
- ・夏場の暑さ
- ・UT検査の結果がよくないとき
- ・溶接をやっていない人の溶接に対する理解のなさ

☆ダントツで多かったのは、夏場が暑い!!でした。火傷やケガ防止の為に完全防備してるから大変です(汗) 溶接に対する理解。長年やっていても日々勉強と思う仕事なので理解しようとする気持ちだけでも…(涙)

Q.家族の事や趣味で、これからやってみたい事や楽しみにしていることはありますか？

- ・NHK大河ドラマ“軍師官兵衛”を毎週観るのが楽しみ
- ・スノーボードを始めたい
- ・家族で温泉に行きたい
- ・正月休み
- ・モンハン(ゲーム)

☆一生懸命仕事をするにはリフレッシュも大切ですよ。協力してくれてありがとうございました^^

（鉄骨工場次長 原大樹）

編集後記

2003年に打ち上げられて7年という年月と、数々のトラブルに見舞われながら関係者の努力によって2010年、世界で初めて小惑星からサンプルを持ち帰り感動を与えてくれた「はやぶさ」の後継機「はやぶさ2号」が地球と火星の間にある小惑星「1999JU3」からのサンプル採取を目指し、2014年12月3日午後1時22分に打ち上げられました。

2020年末に帰還し、採取した物質を納めたカプセルを豪州に投下する予定だ。

このプロジェクトには、前回も、今回も本当に小さな町工場が製造した部品が多く使用されているようです。当社の基本方針でもある

可能性に向かって挑戦する姿勢と「あきらめない」・「継続は力なり」を合い言葉に物づくりを支え、技術を確立していったようです。

この『えぞふくろう』も発行し続けることに価値があることを信じ

皆で頑張っていけます。

（企画開発部長 矢坂直人）

発行



株式会社 残間金属工業

北海道釧路郡釧路町国営5-12-1

TEL 0154-36-1961

FAX 0154-36-5321

Email zanma@zanma.co.jp